



内閣官房 内閣情報調査室  
内閣衛星情報センター

理工系学生のための採用案内

# CABINET SATELLITE INTELLIGENCE CENTER

2022-2023  
採用案内



## 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターを志望する皆さんへ

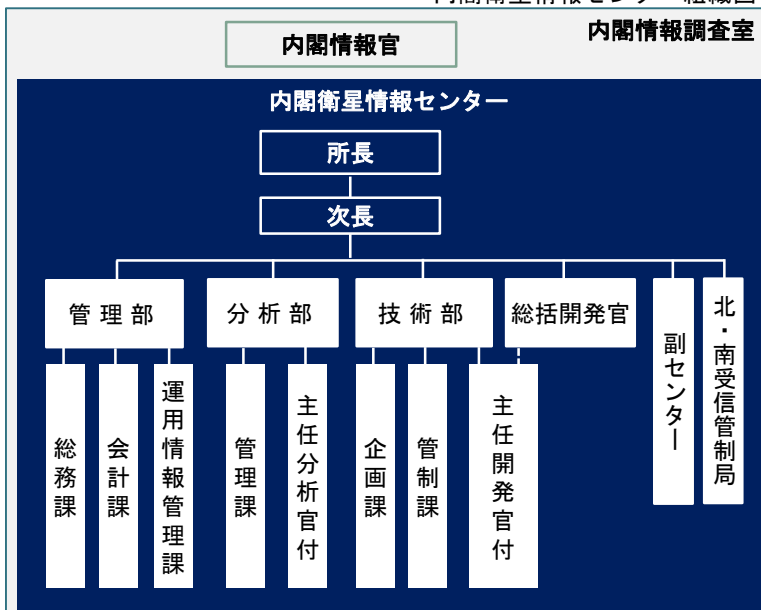
情報は的確な意思決定を行うために不可欠の要素ですが、内閣衛星情報センターは、「総理の目」として画像情報を作成、提供し、政府の重要施策の決定に貢献する機関です。当センターは、平成13年の設立以来、国家安全保障上の課題や自然災害への対応のため、日々、その持てる能力を遺憾なく発揮してきましたが、画像情報の重要性、有用性については、今般のロシアによるウクライナ侵略を機に、専門家の間だけではなく広く一般にも認識されるようになったところです。

当センターが有する能力は、世界でトップレベルにあると高い評価を博していますが、今後益々大きくなっていく画像情報に対する期待に応えるため、より高度な能力を有する衛星の開発や画像処理、分析の能力向上などに不可欠な最先端の科学技術に関する素養を身につけた若く気概のある皆さんの力を必要としています。

宇宙というロマン溢れる空間を舞台に、国家、そして国民の安全と安心のために自らの技術力を活かすことができる「日本で唯一無二の職場」と自負する当センターで、皆さんとともに働ける日を楽しみにしています。

内閣衛星情報センター 所長  
納富 中

内閣衛星情報センター組織図



## 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターとは

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。

現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機体制を確立しています。

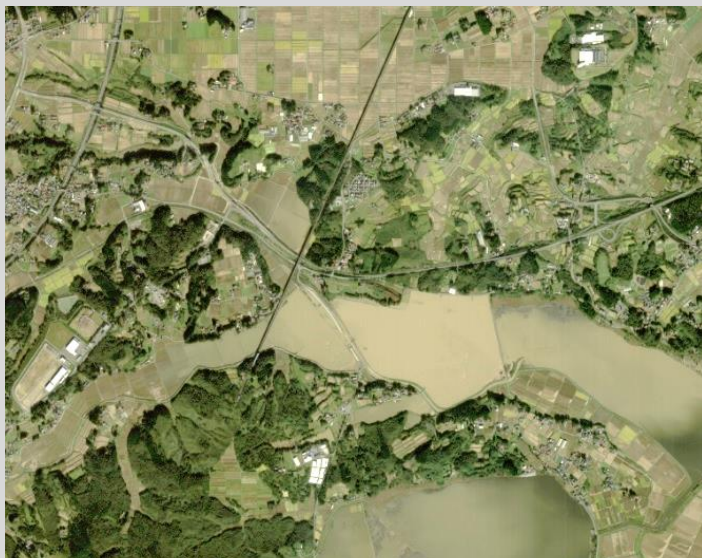
今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。

## 加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和3年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等8件の災害で、合計153件の画像を公開しています。



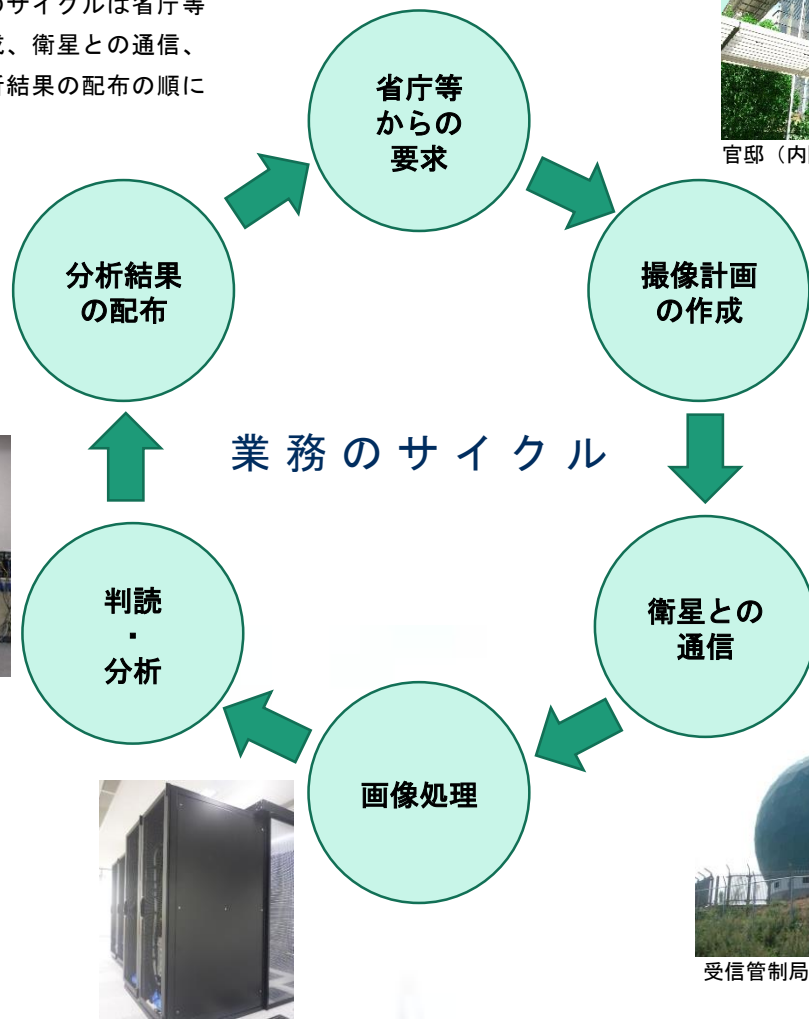
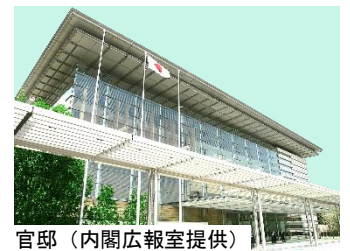
熊本県人吉市中央部  
(令和2年7月豪雨による橋梁消失)



宮城県栗原市中央部  
(令和元年10月台風19号に係る被災地域)

## 情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。



## 情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけでなく、情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。

情報収集衛星システムは衛星システムと地上システムに分類されます。情報収集衛星は、衛星との通信等を行う衛星システムと、画像処理等を行う地上システムをそれぞれ開発しています。

情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

※ 内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。

開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。

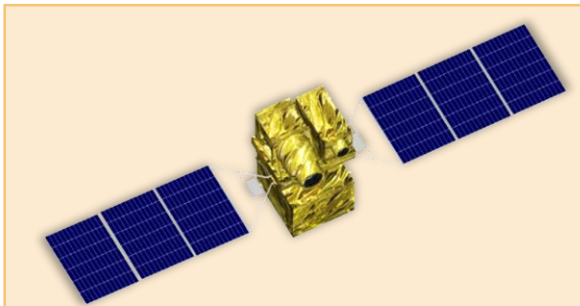
具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、スケジュールの進捗管理等があります。情報収集衛星には、現在年間800億円の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。

# 内閣情報調査室 内閣衛星情報センターの組織

## 管理部

### 全体を俯瞰する

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務となります。たとえば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、情報収集衛星が果たしている役割への一般の方への理解を深める取組を進めたりといったことです。また、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか（撮像計画）を日々作成しています。



### 光学衛星

デジタルカメラ写真のような画像を撮影します。人間の目に映るものと同じ画像なので見やすいですが、雲に覆われていたり、太陽の光が当たっていない時間帯の撮像には向いていません。



内閣官房HPで公開されている情報収集衛星加工処理画像

## 分析部

### InformationからIntelligenceへ

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務となります。

安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読分析を行い、関係機関に提供しています。また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察し、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読分析に関する教育や、判読分析を円滑・効果的に行うための調査研究も行っています。



### ➤ 分析結果の例

右図は平成25年(2013年)11月のフィリピンにおける台風の被害状況についての分析結果です。

この分析結果は、台風で浸水した箇所を地図上に示した上で、滑走路には影響がないことを示しています。これにより、政策決定者は当該空港への支援物資の空輸や人員の派遣といったことを政策の選択肢に含めることができるようになります。

このような危機管理における分析の他にも、外交・防衛等の安全保障に係る対象を必要に応じて判読及び分析を行い、省庁等へ配布しています。

地上施設及び衛星の開発、衛星打上げが主な業務となります。

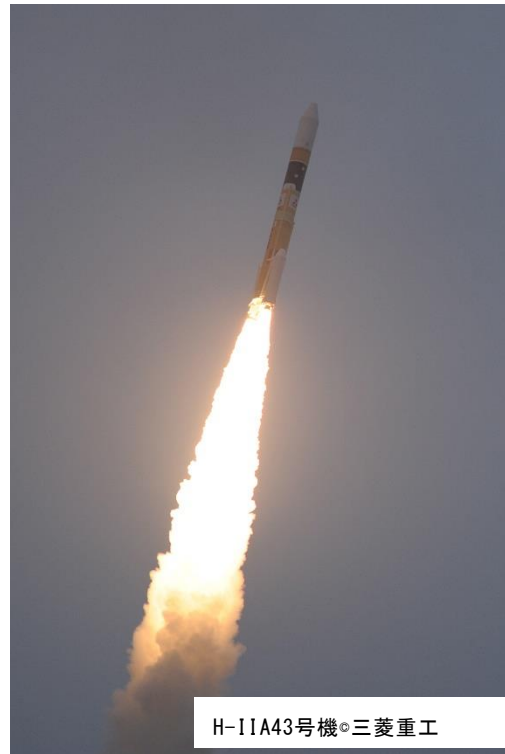
開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星の仕様と設計を検討し、その結果をもとに製造企業を選定して開発を実施します。開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。

地上施設及び衛星は、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。また、運用中も性能の維持向上の取り組みを続けています。

### 技術系職員の声 ①

質問：技術系職員として内閣衛星情報センターで働くやりがいはいったいどのような所にあると思いますか。

- 自分の意見が通りやすく、主体的に取り組んでいれば、1年目でも自分が作成した資料がそのまま幹部報告に使用されたり(場合によっては自分で説明することも!)若手のうちに現場指示を行うこともあり、大変おもしろくやりがいのある職場だと感じます。学生時代に学ぶ論理展開の仕方やそのために必要なデータ収集・解析といった経験は、仕事の場でも大変な強みになります。是非その経験を生かして、一緒に働くことができたらと思います。
- 衛星情報センターで働くやりがいには、宇宙に関するシステムの開発・運用に携われることと思っています。衛星情報センター以外にも宇宙に関係しているシステムの開発・運用を行っている組織はありますが、衛星情報センターほど宇宙に特化したシステムばかりに携わっている組織は少ないと考えています。一般に生活する上では宇宙を身近に感じられることはあまりない中で、宇宙に関わる仕事に携わってみたいという方はうってつけではないでしょうか。



H-IIA43号機 ©三菱重工

### 副センター・受信管制局

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されています。アンテナはレドームと呼ばれる外殻に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったリ、アンテナ自体の維持管理(健全性確認、部品交換など)を行っています。

副センターは中央センターのバックアップ機能を有しているため、受信管制業務だけではなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、通常中央センターで行う業務も行うことが可能です。

また、副センターは情報収集衛星システムの開発に係わる試験施設としての役割を有しています。



北受信管制局

副センター

中央センター

南受信管制局

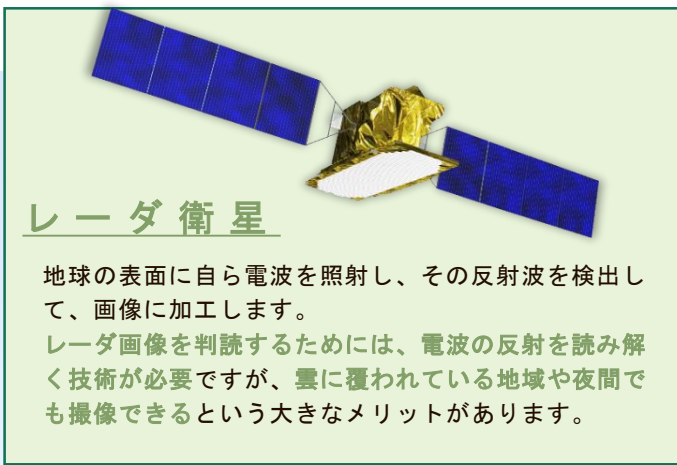
副センター (茨城県)



(C) 2019 DLR, Distribution Airbus DS/Infotera GmbH, Sub-Distribution[PASCO]

### 1 内閣衛星情報センターを希望した理由を教えてください。

- 衛星センターでは、衛星に係るシステムの開発や衛星を制御する業務を行っていることから、大学時代に工学部で学んだ電気電子系の知識と理学部で学んだ物理系の知識の両方を活かせる職場であると考えました。また、衛星画像の判読分析をとおした情報共有による政策決定の支援にも魅力を感じ、内閣衛星情報センターを志望しました。
- 元々災害関係に興味があり、災害対策を行う省庁を希望していました。一方で、2017年の北朝鮮によるミサイル発射に伴うJアラートの発令がありました。当時発令地域に居住しており恐怖心が芽生えたことから、安全保障について考えるようになりました。災害対応及び安全保障のどちらにも携わることができる省庁の中で、開発から運用まで行っている衛星センターは面白そうだと思い、希望いたしました。
- 省庁全体での合同説明会の時に、受験した技術区分の採用を行っている省庁を探した際に初めて組織の存在を知りました。そこで衛星画像を用いた業務があることに興味を持ち、センター内での説明会に参加して、より詳細な業務内容や先輩職員の方の話を聞きました。衛星画像の判読・分析や画像処理に関する業務が自身の興味のある分野と重なり、やりがいを持って仕事ができそうだと感じたため、希望しました。



## レーダ衛星

地球の表面に自ら電波を照射し、その反射波を検出して、画像に加工します。

レーダ画像を判読するためには、電波の反射を読み解く技術が必要ですが、雲に覆われている地域や夜間でも撮像できるという大きなメリットがあります。

### 3 採用後、改めて思う内閣衛星情報センターの魅力を教えてください。

- 衛星の開発、維持管理、運用という目的に対して、多種多様な業務から携わることができることだと思います。
- 情報収集衛星システムの開発をはじめ、開発したシステムを用いて撮像し、撮像した画像を用いて判読・分析を行う、という開発からシステムの活用による情報の作成・提供までを組織内で経験することができます。様々な分野の知識が各工程で必要になるため、日々の業務で多くのことを勉強できることが魅力だと思います。
- 他省庁のみならず、独立行政法人等の様々な組織の人と共に働くことができる点が大きな魅力だと思います。そのような専門性を持った人々から、日々刺激を受け、向上心を持ち続けることができます。

### 2 現在担当している業務内容を教えてください。

- 衛星が撮像した画像の画質の維持向上に関わる業務を担当しています。画像の異常を発見した場合にはメーカーと調整し、確認作業を実施したり、業務に伴う保全業務等を主に担当しています。
- 衛星で撮像してデータを地上まで下ろした後の工程で、データを画像として書き出すまでの動作の監視とその過程で不具合が出た際の対応を担当しています。24時間シフト勤務制で、日勤と夜勤で交代して監視を行います。

### 4 学生等の皆様へ、アドバイスやメッセージをお願いします。

- 普段表に出る機会が少なく関心があまりない方も多いかと思いますが、日本唯一のIMINT機関ということもあり、ここでしか体験できない経験がたくさんあります。少しでも当センターに興味を持っていただければと、センターで働く身としては嬉しい限りです。
- 仕事で求められる「論理的思考」や「簡潔な説明」などの能力は、学生生活の中でも求められる能力であり、大きな差異はありません。今、目の前にある学生生活に全力で取り組み、自己研鑽に励んでください。
- 重要なことはどんなことにも興味・関心を持つことだと思います。大学生の内から、好奇心を持って色々なことに挑戦してみてください。

## 技術系職員の声②

質問：技術系職員に今後更に求められる能力や資質はどのようなものだと思いますか。

- ・ 業務を行う上では、全体の合意を取りながら進めることが重要です。今後も情勢や技術動向は複雑化する一方ですが、説明や提案を行う際は、相手のわからない点を理解し、それを踏まえながら簡潔明瞭に伝えるため何よりもまずは自分自身が理解していなければなりません。そのため仕事をする中で、自分の知らない技術や知識に触れる機会が多々ありますが、その都度それら技術・知識を吸収できるよう学習し続ける姿勢が求められると考えます。
- ・ 技術系職員のみ求められる資質ではありませんが、物事の詳細や背景を突き詰める姿勢が重要ではないかと考えています。例えば、衛星の開発の方針を決定する際に審査が行われることがあります。審査員の方への説明にあたってはその内容の詳細や背景を把握していれば質問や指摘に対する回答も円滑になります。何事にも限られた時間しかない中で、一つの物事ばかりを突き詰めることも難しいですが、可能な範囲で物事を確認する姿勢が望ましいと考えています。

## よくある質問（理工系学生向け）

Q 内閣衛星情報センターは、技術系と行政系で採用は別ですか？

A 内閣情報調査室の採用は、全区分と内閣衛星情報センター技術系があり、後者は内閣衛星情報センターが窓口となっています。どちらで採用されても双方での勤務があり得ますが、内閣衛星情報センター技術系で採用された場合は、主に内閣衛星情報センターを中心に勤務することになります。

Q どの試験区分を採用しているのですか？

A 試験区分について制限はありません。幅広い知識の職員を求めています。

Q 総合職の採用はありますか？

A 一般職のみの採用となっています。

Q 採用された場合、勤務場所はどこになるのでしょうか？

A 内閣衛星情報センターには地方組織として副センター、北・南受信管制局がありますが、職員の90%以上は東京の中央センターで働いており、東京勤務の期間が多くなります。

Q 内閣衛星情報センター以外の勤務はありますか？

A 少数ではありますが内閣情報調査室の内閣衛星情報センター以外の部署での勤務や、一部省庁への出向を行っています。また、衛星開発関連企業との間で人事交流を実施しています。

Q 大学で宇宙や人工衛星について学んでいないのですが、やっていけるのでしょうか？

A 採用時点で宇宙や衛星の専門的な知識は必須ではありません。採用後の研修や業務を通じて知識を身に付けて頂ければ良いと考えます。

Q 採用された技術系職員はどのようなキャリアパスになるのですか？

A 採用後は管理部、分析部、技術部のいずれかに配属され、基礎的な行政事務手法を学ぶとともに、ローテーションを行い、当センター業務の全体像を把握していきます。その後各職員の希望及び適性に配慮の上、それぞれの専門分野を決めていきます。なお、採用区分と専門分野が同一になるとは限りません。

Q 今年度の内閣衛星情報センターの採用は何人ですか？


A 技術系職員は**6名程度**採用の予定です。

## 採用担当から学生へのメッセージ

この度は内閣衛星情報センターのパンフレットを手にとって頂きありがとうございました。以前ほどではありませんが、現在もコロナの影響は継続しており、説明会等への参加が難しいこともあるかもしれません。そのような状況の中、少しでも当センターの業務を知っていただきたいと考えこのパンフレットを作成しました。

現在世界情勢は厳しさを増しており、内閣衛星情報センターの重要性は大きくなっています。安全保障に係わりたい方、人工衛星に興味がある方等、志望先の一つとして検討して頂けると幸いです。





〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町9-13

☎03-3267-9564（採用専用）

JR総武線・東京メトロ有楽町線・南北線  
「市ヶ谷」駅徒歩10分